

日立電子サービス 首都圏直下型地震を想定してBCM体制を強化 名古屋・広島にBCM対応のロジスティクスセンタを開設

日立電子サービス株式会社（以下「日立電サ」、本社：東京都港区、代表取締役 社長執行役員：百瀬 次生）は、首都圏直下型地震を想定し、4億円を投じて、名古屋、広島にもBCM対応のロジスティクスセンタを開設、事業継続マネジメント（BCM^{*1}）機能を強化しました。

10月1日から運用を開始します。

東京に3カ所あるロジスティクスセンタは、全国12カ所のセンタ及び全国320ヶ所の在庫拠点と連携を取り、全国のお客様システムへ、点検からトラブル対応まで、今では世の中のライフラインとなった情報システムを守るため部品を供給する要となるセンタです。本センタは、耐震設備・物理セキュリティシステムを完備し、先進の「ロジスティクス情報システム」によって全国どこからでも部品の在庫・拠点への配備状況等が把握できるよう、詳細かつリアルタイムで管理され、24時間のサポート体制を提供しています。

日立電サでは、05年に首都圏直下型地震発生時の交通規制による部品配送の混乱を考慮して、規制がかからないと考えられる東京郊外にも、ロジスティクスセンタを設けました。また、06年には物理セキュリティマネジメントシステム「Webvisor」^{*2}により、各センタのセキュリティを強化しています。07年3月には、「ロジスティクス情報システム」のバックアップを大阪に構築。万一の時にも、被災地はもちろん、全国への部品の供給が止まらないよう、体制を強化してまいりました。

今般、中部地区・中国地区にも本格的なBCM対応のロジスティクスセンタを設けることにより、首都圏直下型地震で、万一東京のセンタ機能が麻痺した場合でも西日本から確実にバックアップする堅固なBCM体制が整うと共に、平時も西日本地区への部品供給がよりスピーディーとなります。

近年の日本各地で発生している自然災害、特に新潟県中越沖地震では、各産業に多大な影響があり、被災や停電などによる情報システムの停止が社会基盤に与えるインパクトが非常に大きいことを印象付けました。日立電サはどのような状況下でもお客様の情報システムを守り、安定稼働を通じてお客様の本業そのものをサポートいたします。

*1 BCM :Business Continuity Management

*2 Webvisor:画像監視や入退室管理、ラック管理、映像集中管理などの機能を組み合わせ、ネットワークで統合する、物理セキュリティマネジメントシステムで日立電サの商品

日立電子サービス株式会社について

日立電子サービスは、「お客様の飛躍を支えるベスト・ソリューション・パートナーになる」を経営ビジョンに、情報システムにおける企画・調達から設計・構築、導入、運用、保守のライフサイクル全体にワンストップで対応する「統合サポートサービス」を展開。ハードウェア／ソフトウェアが一体となった、より進化したトータルなソリューションを提供。全国 320 カ所のサービス拠点網と日立ソリューションサポートセンターを中心に、24 時間 365 日万全の体制で、安心と信頼の情報システムを“安心の「電サ」”が実現します。

■ 報道機関問い合わせ先

日立電子サービス株式会社 社長室広報グループ【担当：矢野、^{きどさき}城戸崎】

〒108-0073 東京都港区三田 3-13-12（三田 MT ビル）

TEL：03-5441-9262（ダイヤルイン）、090-2328-0092（携帯電話）、FAX:03-5441-9243

E-mail: ans1@hitachi-densa.co.jp

以 上